

第四次長野市総合計画における交流人口の検討について

1 第三次長野市総合計画の交流人口

(1) 位置づけ

- ・基本構想において、「まちづくりの目標」の基本指標の一部として設定している。

【基本構想】まちづくりの目標

- 第2章 基本指標 1人口 (1)定住人口
(2)交流人口
(3)年齢別構成(定住人口の人口構成)
- 2世帯
3就業人口

(2) 要点

- ・「本市を訪れる人々にとって、親しみと愛着をもてるまちづくり」を進めるために「1,200万人の交流人口」を目指すとして記載している。
- ・観光やコンベンションを目的として訪れる交流人口に着目し、観光地利用者数を指標とした。

2 交流人口の現況

長野市観光地利用客数推移

観光地利用者統計調査結果(長野県)

単位:人

観光地名	平成11年	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年
善光寺	6,702,800	6,717,600	6,374,600	6,182,100	11,254,900	6,100,200
飯綱高原	888,800	878,900	838,700	823,000	797,400	843,400
松代	205,200	202,100	282,400	287,900	301,700	809,300
川中島	152,800	153,400	150,700	147,900	205,800	282,700
恐竜公園	293,300	330,000	323,600	328,200	324,800	334,700
エムウェーブ	-	477,500	410,700	409,500	346,900	397,000
旧長野市計	8,242,900	8,759,500	8,380,700	8,178,600	13,231,500	8,767,300
戸隠高原(戸隠)	1,106,600	1,086,800	1,132,700	1,101,300	1,016,800	995,700
奥裾花峡戸隠西高原(鬼無)	106,300	108,800	57,500	113,800	143,500	107,100
聖山高原(大岡)	42,200	39,200	39,600	94,000	83,200	38,100
合併町村計	1,255,100	1,234,800	1,229,800	1,309,100	1,243,500	1,140,900
合計	9,498,000	9,994,300	9,610,500	9,487,700	14,475,000	9,908,200

コンベンション参加者数(ビューロー誘致・支援コンベンション)

長野市観光コンベンションビューロー資料

	平成11年	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年
コンベンション参加者数	114,760	111,741	173,074	135,460	196,393	174,194

合計

	平成11年	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年
観光+コンベンション	9,612,760	10,106,041	9,783,574	9,623,160	14,671,393	10,082,394

3 今後の交流人口を考える上での背景と課題

(1) 背景

- ・市町村合併により戸隠、鬼無里、大岡などの新たな観光資源が増加した。
- ・新幹線や高速道路など、全国の高速度交通網の整備が進んでいる。
- ・インターネットによる情報発信や情報収集、予約等が浸透しつつある。
- ・個人のライフスタイルや価値観の変化により観光・交流の行動も多様化している。
- ・退職期を迎える「団塊の世代」の消費・行動の動向が注目されている。
- ・癒しやスローライフが注目されている。

(2) 課題

- ・北陸新幹線の延伸に伴い、長野が中間駅となり、観光客の分散が懸念される。
(北陸新幹線はH26年度までに金沢までの一体完成を目指している)
- ・観光・コンベンション等の都市間競争で存在感を示すための戦略が必要となる。
- ・善光寺への一極型、通過型の観光形態の改善と、様々な観光・交流ニーズへの対応が必要となる。
- ・人口減少と高齢化社会を迎え、一層の都市活力の維持・活性化策が必要となる。
- ・今後、観光統計基準の全国統一が予定され、統計手法が変わる可能性がある。

4 他都市の交流人口状況

- ・長野市を除く中核市34市(平成16年度)のうち、交流人口を記載しているのは10市で、うち数値目標を設定しているのは3市となっている。交流人口の定義も、都市の特性により昼間人口や買い物客等を含めるなど様々である。
- ・当市のように観光・コンベンションを主体にしている都市は、先の10市中4市である。

(事例)

静岡市(基本計画に記載・H17年度策定)

- ・年間2,100万人の観光交流客があるが、東アジアからの来訪が少ない。
- ・5年後(平成21年度)の観光交流客の目標を2,500万人とする。
- ・コンベンションを核としたまちづくり、地域資源の再発掘とネットワーク化、イベント、東アジア誘客ソフト開発・ハード整備(静岡空港等)等で交流を推進。

金沢市(基本構想・H7年度策定)

- ・金沢には年間600万人の観光客や250万人のコンベンション参加者があり、都市の魅力を高めるとともに、国際交流や圏域交流を積極的に推進していくことによって、増加が見込まれることから、今後は、これらの交流人口をも考慮した都市づくりを進めていく必要がある。

奈良市(基本構想・H13年度策定)

- ・1998年には、「古都奈良の文化財」として、東大寺をはじめとする八資産群が、ユネスコの世界遺産リストに登録されたことにより、これらをはじめとする歴史的文化遺産を核として、魅力あふれるまちづくりを進める。このことにより、ここ数年1,300万人前後で推移している奈良市の交流人口(主に観光客数を指標とする)の拡大を目指す。